
流星のロックマン ～平和のために～

四季

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン ～平和のために～

【Nコード】

N7475I

【作者名】

四季

【あらすじ】

流星のロックマン、すなわちスバルが、平和のためにナビとの戦いの中、ミソラとの恋愛ストーリーなどもあり、過去に戻り、20年前のロックマンにも会うなど、ストーリー満載のロックマンです。

作品介绍

「流星のロックマン」平和のために」の作者の四季です。たくさんの小説を読み、自分も書いてみたいと始めました。できるだけ早く書いていきますので、皆さん応援よろしく願います。では、内容は流星のロックマンですが、スバルが平和のためにナビと戦ったり、ミソラとの恋愛ストーリーもあったり、過去に戻ったりもします。皆さん応援の方、よろしく願います！

先生：「スバル！廊下は走ったらいかんと何度も言ってるだろう！それに、また遅刻1分前じゃないか！はやく席に座りなさい！」

スバル：「ご、ごめんなさい」

スバルは席に着くと、ため息をついた。チラリと横を見ると、委員長があきれた顔で見つめてきて言った。

委員長：「スバル君！そう何度も何度も遅刻ばかりしたらいけないのよ！」

スバル：「はいはい」

委員長：「何よその謝り方は！人がせつかく注意してあげてるのに！少しは反省したらどうなのよ！」

ウォーロック：「また始まったぜ、こうなると休み時間が厳しいな・・・」

スバル：「そうだねウォーロック・・・」

委員長：「スバル君！ちゃんと聞いているの！」

スバル：「は、はい！」

ウォーロック：「はあ・・・変わんねえなあ。スバルも」

日常（後書き）

どうでしたか？たぶん全然だと思っています。

いざ書くとになると全然駄目ですね。時間もあまり無いですし。けど、書いていきますので、応援よろしくお願いします。

ささいな事件

委員長から説教され、少しへこんでいたスバルだが、時間が経つにつれて機嫌が直ってきた。しかしその頃には、もう帰りの会が始まっていた。

先生：「連絡があります。この頃、電腦がウイルスにより攻撃されたり、突然レンジが爆発するような事件が続いています。気をつけて帰るように！」

生徒A：「先生さようなら！」

ウォーロック：「ウイルスが増えているのは何か原因がありそうだなスバル。」

スバル：「そうだね。僕たちも気を付けなきゃね。」

ウォーロック：「何でだよスバル！」

スバル：「どういう事？ウォーロック。」

ウォーロック：「せっかく事件が起きたんだぜ？原因を調べるのが普通だろ！」

スバル：「？。ウォーロックにしては珍しいこと言うね。ただバトルがしたいだけなんじゃ……」

ウォーロック：「うるせー！何でも良いから調べに行こうぜ！」

スバル：「わ……わかったよウォーロック……」

スバル：「じゃあ。まず家に帰ってからってこ」

キーン コーン カーン コーーン

先生：「生徒の皆さん！調理室のガスコンロが爆発して火事です！
速やかに避難してください！」

スバル：「!!!!」

ウォーロック：「!!!!」

ウォーロック：「スバル！きっとウイルスのせいだぜ！」

スバル：「うん！電腦に入って調べてみよう！」

ウォーロック：「そこなくっちゃあ！」

スバル：「……ハア」

2人は、電腦に入った……。

ささいな事件（後書き）

ちょっと間違ったのですが、人物紹介してない！次回の後書きで書かせてもらいます。すみません。

見てくださった方は評価お願いします。

今回は、電腦の中での出来事です。楽しみにして下さい。

作り出されたウイルス（前書き）

すみません。ここでお知らせです。

僕の今までの書き方では、「」の前に、名前を入れていたが、ある方のアドバイスのため、「」だけで書きたいと思います。お願いいたします。

作り出されたウイルス

スバルは、電腦に入り、調理室の電腦がある2階へと進んだ。

「うわ！危ない！」

「だいぶ火が回って来てるな。これはただのウイルスのしわざじゃねえなあ。」

「そうだね。急いで原因を突き止めなきゃねウォーロック。」

「ああ。」

スバルは急いで電腦を進み、調理室の電腦の前まで来た。

「ウォーロック。ここは火がありすぎて通れないね。」

「ああ。他の道を探そうぜ。」

スバルが走り出したとき、突然後ろから声がした。

「ちょっと待ってください！」

それは、電腦を守ることをプログラムされた守護テンパ君だった。

「何？守護テンパ君。」

「私たち守護テンパは、調理室が火事になることがあるので、【ウォータープログラム】を持っています。しかし、原因不明の大爆発

のため傷がひどくて動けないのです。だから、私の代わりにこれを使ってください。」

「ありがとう。守護デンプ君。」

「これで火を消してください。」

「わかった。」

ザバーン！ザバーン！ザバーン！

「よし！消えた！後は調理室の電腦だけだ！」

「待ってください！この爆発は普通の爆発じゃありません。もしかしたら、すごいウイルスがいるかもしれません。がんばってください。」

「ありがとう！わかったよ。」

スバルは、調理室の電腦に入った。

「うわ！ここも火がすごいな。」

ザバーン！ザバーン！ザバーン！

「よし！」

「あれがガスコンロのプログラムか。」

「ん？なんだあのウイルスは。」

「おいスバル！気を付ける。あのウイルスは今までバトルしたことない。」

「うん。わかってる。」

「あれはたぶん火の固まりに何かをプログラムされた……い
わば作られたウイルスだ。」

「でも、誰が何のために……」

「そんなこと言ってる場合じゃないだろう！来るぞ！」

「うん！ロックバスター！」

ヒュンヒュンヒュン！

「あれ？ロックバスターがすり抜ける！」

「あれは火の固まりだぜ！ロックバスターが効くわけねえだろう！」

「そ、そうか。」

「！」

「そうか！火の固まりなんだ！」

「どうしたスバル？」

「ウォータープログラム！」

ザバーン！ザバーン！ザバーン！

ジュウウウウウウウウウウウウウウウウ。

「やったぜスバル！」

「よし！これで一見落着だねウォーロック。」

「ああ」

（でも、いったい誰が何のためにしたんだろう……）

「どうした？スバル。」

「い、いや。何でもないよ。人が来る前に帰ろう」

「ああ。そうだな。」

スバルは電腦から出て、家に帰った。夕食も食べ。布団に入った。

（今日の火事は、誰のしわざなんだろう。）

そんな事を考えてるうちに、スバルは寝てしまった。

作り出されたウイルス（後書き）

どうでしたか？ウォータープログラムの効果音が変な気がします。次回は、スバル達は土、日曜日なので、どこかに行こうと思います。評価や感想待つてまゝです。

それと、クイックロッドさん、アドバイスありがとうございました。貴方の作品に目を通しましたが、長すぎて読めませんでした。僕にとっては大先輩って事になりますね。これからもアドバイスお願いします。あ、忘れてましたが、人物紹介したいと思います。

スバル・・・小学5年生。ウォーターロックと融合することでロックマンになる世界のヒーロー。

ウォーターロック・・・昔、FM星人だった電波体。スバルの相棒。

委員長・・・白銀ルナです。スバルの学級の委員長です。ロックマンのことが大好きらしいです。これからはルナで出したいと思いません。

これぐらいしか登場人物いませんよね。たしか・・・

これからの登場人物はその話で説明したいと思います。ありがとうございました！

スピカモールにGO!

「……バル!」

「……ス……バル!」

「起きろ……スバル!」

「スバル!」

「う、うん。何だよオーロック、今日は土曜日だろ。もう少し寝させてよ。」

「メールが来てるんだよ!ルナ達から!」

「はいはい。委員長からね……」

「委員長!?で、ウォーロック。なんてメールなの?」

「9時に駅前集合。時間厳守。遅れたら……だってよ。」

「マ、マズイ!今何時?」

「8時40分だぜ。」

「何でもっと早く起こしてくれなかったんだよ!」

「何度も起こそうとしたが、おまえが起きなかったんだろうが!」

「とにかく急がなきゃウォーロック」

スバルは急いで着替えて、階段を下りていった。毎日のことだが、ウォーロックはあきれを隠せないようだ。

「母さん！ルナちゃんから呼び出しが来たから行ってきます。」

「朝ご飯は？」

「あゝもう。そつだそつだ。」

「じいやあいつへひまゝ」

口の中にご飯を含んだまま、スバルは出かけてしまった。

「ウォーロック！今何時？」

「8時55分だ。」

「よし！まだ間に合う！」

目の前にはゴン太、ギザマロ、ルナが待っていた。

「ごめん。ごめん。ぎりぎり間に合った。」

「スバル君。よかったですね。もし遅刻してたら大変でしたよ？」

「そつだねギザマロ。」

「そこの2人！何か文句でも？」

「い、いえ！何でもありません！」
「い、いえ！何でもありません！」

「よし！じゃあこれからスピカモールに行くから。準備はいいわね？」

「あれ？ウォーロック。スピカモールなんて聞いてないぞ！」

「俺だつて知るかよ！メールには書いてないんだからよ！どうこう言われてたまる……」

「どうしたのウォーロック？」

「ほんとだ。メールにスピカモールって書いてるぜ。」

「ほれ見ろ！まだ母さんに行くって行ってないよ！」

「スバル君！何か？」

「いえ。何でもございません。」

「じゃあ。スピカモールに出ばーつ！！」

「おー」

「おー」

「はあ」

4人は、スピカモールに出発した……。

スピカモールにGO！（後書き）

すみません。新型インフルエンザにかかってしまい、当分かけませんでした。

スランプとかではありません。でも、まだ潜伏期間なので、若干文字が少ない気がします。

あと、ゴン太は、勇気があり、食べることが大好きのスバルの友達です。

ギザマロは、臆病ですが、計算が得意で、勉強面では4人中で、一番です。ギザマロも、スバルの友達です。

最近思ったのですが、この小説、何人ぐらい読んでくれているんですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7475i/>

流星のロックマン ～平和のために～

2010年11月16日11時03分発行